

登録コード	UAA37500	開講年度	2026				
授業題目	中国語学・文学実践演習Ⅱ					担当教員	伊藤 加奈子
						副担当	氏岡 真士
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	月曜・6時限		
				授業形態	演習		
信大コンピテンシー該当							
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」					⇔	【授業の達成目標】
	2 6 UAカリ・総人社・人間文化学, 2 5 UAカリ・総人社・人間文化学						
	【人間文化学】思想、歴史、社会、情報、言語、芸術など多種多様な側面を持つ人間文化に関する深い素養と幅広い理解を基盤として、その文化を継承し、柔軟な感性と創造的な論考により専門領域の問題を客観的・学問的に究明し、独自に理論を構築する能力や仮説を検証する能力を有する。					⇔	言語、芸術、歴史、社会といった多種多様な側面を持つ中国言語文化に関する深い素養と幅広い理解を基盤として、柔軟な感性と創造的な論考により専門領域の問題を客観的・学問的に究明し、独自に理論を構築する能力や仮説を検証する能力を有する。
(2)授業の概要	最初に受講生と授業で取り上げる中国語学的トピックについて話し合い、調査する為の指導をしつつ、受講生本人からのアイディアは勿論、教員からの分析視点を加え討論することで、最終的に語学の興味ある具体的な問題についてレポートの形にまとめあげます。						
(3)授業計画	初回授業はガイダンスと中国語の言語資料の紹介、以降は、資料読み込み＞語学的問題点の指摘＞仮説を裏付ける諸資料収集＞様々な角度からの検討分析、このような手順で進めていきます。 第1回：ガイダンス、中国語の言語資料の紹介 第2回：中国語の言語資料の読み込み1 第3回：中国語の言語資料の読み込み2 第4回：中国語の言語資料から挙げられる語学的問題点の指摘 第5回：中国語の言語資料から挙げられる語学的問題点の絞り込み 第6回：語学的問題点を考察するための仮説検討 第7回：中間のまとめ 第8回：仮説を裏付ける資料と例文の検討分析1 第9回：仮説を裏付ける資料と例文の検討分析2 第10回：日中対照の視点からの検討分析1 第11回：日中対照の視点からの検討分析2 第12回：仮説を裏付ける資料と例文の更なる検討分析1 第13回：仮説を裏付ける資料と例文の更なる検討分析2 第14回：仮説を裏付ける資料と例文の更なる検討分析3 第15回：授業のまとめ 期末試験は実施しない。						
(4)成績評価の方法	●以下を総合して判定する。 学生の準備資料・授業での分析検討内容（50%）と、期末レポート（50%） ※評価割合は若干の調整を行うことがある。 ●得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。						
(5)成績評価の基準	・卓越している＝中国語学のトピックを自ら選定し、それに関係する言語資料を収集し、精密に分析検討を重ね、独自の見方を提示して更なる語学的問題として発展させることができる。 ・かなり上にある＝中国語学のトピックを自ら選定し、それに関係する言語資料を収集し、精密に分析検討を重ね、独自の見方を提示することができる。 ・やや上にある＝中国語学のトピックを自ら選定し、それに関係する言語資料を収集し、精密に分析することができる。 ・その水準にある＝中国語学のトピックを自ら選定し、それに関係する言語資料を収集し、ある程度分析することができる。						
(6)事前事後学習の内容	最初に中国語の言語資料を読み込み、単に内容を把握するだけでなく、単語・フレーズ・文・段落といった様々な単位で語学的説明が不明瞭と感じる点は何か、それを意識しながら準備をすること。 語学的問題を反映している具体例を見つけたら、それと同様な現象を示す例と、更に範囲を広げて関連する例も搜索すること。 様々な例文について考察検討した後、そのプロセスと結論を分かりやすい文章でまとめること。						
(7)履修上の注意	履修者は基本的に中国語学・文学専攻の学生に限ります。						
(8)質問、相談への対応	毎週火曜日12：30～13：20のオフィスアワーには人文学部棟3階の研究室にいます。その他の日時でも、授業以外の研究室にいる時には対応できますので、気軽にメールで問い合わせてください。 伊藤の授業担当時限は人文学部・人文科学研究科・共通教育シラバスにて確認してください。 メールアドレス：itokana@shinshu-u.ac.jp						
【教科書】	《我men的荊軻》莫言、新世界出版社 最初の授業で言語資料としてコピーを配布します。						
【参考書】	『中国語ははじめの一步』木村英樹、ちくま新書 《現代漢語八百詞》呂淑湘、商務印書館						